新年の百野会長ご挨拶

一般社団法人　日本伸銅協会
会　長　　百野　修

皆様、明けましておめでとうございます。

さて昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵略に起因したエネルギー価格、原材料価格の高騰が２０年ぶりの超円安によって拍車がかかり、大変厳しい事業環境、生活環境を強いられた一年でした。未だその終息の兆しは見えません。

また、中国のゼロコロナ政策による年末から一転して緩和政策をとるなどサプライチェーンが混乱しており、直接的・間接的に多くの日系企業が影響を受けました。

このような状況下、私どもの伸銅品需要は、主に中国事情と半導体を始めとする各種部品部材不足から、生産活動の停滞に直面し、自動車減産の在庫調整やスマートフォン販売不振の影響を強く受けました。

その結果、２０２２年暦年の伸銅品生産は、主要品種の減少により、対前年約３％減の７５万トン程度となる見通しです。ただし主力製品のうち「銅条」は、3月に単月過去最高を記録するなど、車載向け半導体の好調と端子・コネクタの堅調から高水準が継続しました。

２０２３年の伸銅品の需要についてですが、
「板条製品」は、昨年はスマートフォンの不振に見舞われましたが、半導体の高水準生産と自動車の挽回が見込まれることで回復が期待されます。

「銅管」については、ルームエアコン生産の回復や大型物件再開によるパッケージエアコンの増加、エコキュート需要の拡大が見込まれます。

「黄銅棒」については、建築着工は低調と見られますが、各種部品不足の解消により、足元に対しては緩やかな回復が期待されます。

日本伸銅協会が昨年秋にまとめました中期需要見通しにおいては、「板条製品分野」では一貫した伸びを見込んでいるほか、「銅管」や「黄銅棒」も回復基調を辿り、持続可能な社会に向けた各種投資関連の新規需要立ち上がりが期待されることから「伸銅品全体」としては緩やかに成長すると予想しております。

その結果、「２０２６年度の伸銅品需要の合計は、８２万トン、年率１．１％」の伸びを見込んでいます。

こうした中、２０５０年のカーボンニュートラルに向けて、地球環境問題にも取り組んでいくことが重要です。

日本伸銅協会では、カーボンニュートラル行動計画における 2030 年目標の見直しも行い、2013 年度比で約 33%の CO_2 排出量削減を掲げました。

また、協会会員による様々な社会環境問題への取り組みを紹介するため、昨年 12 月に「SDGs」に対する具体的な取り組み内容をホームページ上で公開しました。

協会全体として、これらの活動に注力していきたいと思っております。

伸銅品を取り巻く環境は、製品の軽薄短小化の進展、中国をはじめ近隣の伸銅業の技術水準の向上、原料高騰による他素材との競合等厳しく、これら課題を克服していく必要があります。

そのため、日本伸銅協会では協調領域における研究・技術開発や市場調査のテーマ抽出を継続的に行ってきました。今年度は「学」の力も借りながら、その中のいくつかを具体的な活動として立ち上げ、伸銅品技術戦略ロードマップにも折り込んでいきたいと考えています。

また、銅に関する産学連携の研究が一層推進されるよう、「日本銅学会」を支援して参ります。

昨年７月、ご就任の挨拶のため、経済産業省製造産業局長の山下様を訪問させて頂き、伸銅業におけるエネルギー価格の高騰の影響についてご説明をさせて頂きました。山下局長からは、前職が資源エネルギー庁次長をされていたこともあり、政府内での検討状況などを説明いただきました。

岸田政権のご尽力で、今年一月から「電気・ガス価格激変緩和対策事業」が実施されます。一般のご家庭や事業所では大いに期待しているところでは

ありますが、価格高騰の原因解決は不透明です。
　今後も協会としては、政策立案に役立つ情報を提供させて頂きますので、ご対応をよろしくお願いいたします。

　新型コロナ禍とは、まだまだお付き合いをしていかなければならない様子です。この３年で、市場は急激に変化致しましたが、更なる変化も予期されるところです。
　このような変化にも対応し、先ほどの課題にも対応をしていくには、いかに「伸銅品のプレゼンスを向上させるか」が重要です。それには我が国伸銅品の特徴である「高性能かつ高品質で、魅力のある製品」を今後も提供していくことに以外にありません。

　そのためには、流通業界及びリサイクル業界を初めとする関係業界のご理解とご協力を頂くと共に、関係官庁のご支援が必要なことは言うまでもありません。

　引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。